

## はじめに 設楽町 町長 加藤和年



皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。昨今、全国各地で地域医療崩壊が進み、大変深刻な状況となっております。当東三河北部医療圏域においても例外ではありません。設楽町におきましては、3名の開業医と町営の診療所により地域の医療を担っております。しかし、この先生方だけで町内すべてをカバーすることはできません。特に緊急時(救急)の対応につきまして、住民は不安を感じているところだと思えます。そうした住民の不安を少しでも解消するために町内に24時間離発着可能なヘリポート場の建設をしまいたします。平成20年度は、津具ヘリポート場の夜間照明設備整備と名倉ヘリポート場の建設を行いました。本年度は、田口地区に24時間対応のヘリポート場を建設いたします。

また、町営診療所におきましては、20年度より週5日の診療をおこなっており、本年度においても診療時間の見直し等を行って充実を図っています。また一方では、健康増進計画に基づき予防事業を行ない住民の健康維持増進を図っております。

町民が安心安全に暮らせるためには、東三河北部医療圏域とりわけ新城市市民病院の再生が必要不可欠であると考えております。今後とも東三河北部医療圏域の皆様方とともに医療問題に取り組んでいきたいと思えます。よろしくお願いたします。

### 開業医訪問 しんしろフィットクリニック 院長 織田邦義



当クリニックは、高齢者の寝たきり予防に有効なパワーリハビリ施設、メタボ解消やダイエットの為にスポーツジム及びデイサービスセンターを併設した複合型医療施設として新城市川路に3年前オープンいたしました。運営母体は旧鳳来町山吉田にある織田医院です。

地域の皆様の御指導御鞭撻と暖かい御支援を賜りましてお陰様で開業4年目を迎えることが出来ました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

当クリニックは内科、小児科、リハビリ科を標榜しておりますが、特徴としましては

- 平日午後8時まで、土曜午後5時までの夜間帯診療
- レーザー、マイクロ波、低周波、牽引器等の物療機器に加え豊富なスポーツマシンやパワーリハビリマシンを揃え、疼痛治療から予防医学領域までを幅広くカバー
- 小手術の際には出血の少ない高周波メスを使用等々が挙げられます。そして今後も技術向上に精進し、地域医療に微力ながら貢献出来ましたら幸甚に存じます。

### 勤務医訪問 新城市市民病院 消化器科・外科診療部長 横井佳博



平成20年7月に当院へ赴任し、約10ヶ月が過ぎようとしております。私は元来、消化器外科、なかでも肝胆膵疾患を専門としておりましたが、当院では消化器科も標榜しており、内科疾患の診療や検査(各種内視鏡、血管造影)にも携っております。当地での医療に接して思いますのは、高齢者の超進行癌例が多いということです。この主な理由は、山間部で医療施設へのアクセスが悪いこと、農繁期には受診を躊躇すること、そして病気に対する知識が乏しいことかと思えます。ちなみに大腸癌検診受診率は全国平均22%内外であるのに対して、当地ではなんと7.1%(平成20年度)という低値には驚かざるを得ません。

今年当院での勤務が2年目ですので、新城医師会の先生方との連携を深め、また地域住民の方には、まずは検診の広報を足がかりとして、消化器疾患の啓蒙を広め、地域医療に貢献していきたいと思えます。診療面では肝胆膵手術の実施、術前化学療法を含めた進行例に対する切除率の向上、腹腔鏡手術の適応拡大、そしてIVR(interventionalradio

## しんしろフィットクリニック

場所 新城市川路字小川路 133

電話 0536-23-8531



↑ 全景



↑ スポーツジム及びデイサービスセンター

## 市民病院 消化器科・外科診療部長 横井佳博

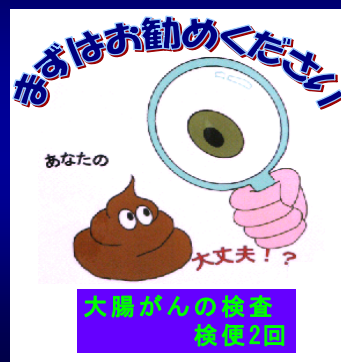
logy)の充実など、基幹病院に科せられたレベルを維持すべく、日夜、精進して参りたいと思います。真面目に、また熱く取り組んでおりますので、消化器一般で症例などありましたら、是非、当科にご紹介くださるようお願い申し上げます。



## ステージIIまでに癌を見つけましょう！

要注意：  
血便を痔と思っている人  
便の習慣が変わった人  
おなかの具合が悪い

**早期発見！！  
検診を！！**



## みんなの広場

## 子育て情報誌さくら



私たち(子育て情報誌さくら)は、子育て真っ最中のお母さん5人で構成されています。下は二歳から上は六年生の子供がおり、家事・育児・仕事をこなしながら、ボランティアで何か役に立つことがしたいと強い気持ちを持ち活動をしています。



二年前よりよちよち歩きでスタートした活動も、早いもので、五月には第二版を発行するまでとなりました。これもひとえに先生方や地域の皆様の協力の賜物だと思い、心から感謝しております。初版はJ Cの助成金をもとに200部ほど発行しました。今回は広告料をもとに500部発行する予定となっております。発行した情報誌は保健センターの協力を得まして、第一子の新生児訪問の時に配布していただいたり、各施設に置かせてもらうことが決まっています。第一版の反響は様々ですが、子育て中のお母さんから、お年寄り、新城に越してきた方など広範囲で喜ばれているようです。今後とも子育て中のお母さんをサポートできる情報誌でありたいと思い、ニーズの把握に努め活動していけたらと考えております。どうか今後ともかわらぬご支援ご指導をお願い申し上げます。

子育て情報誌 さくら

